

シリーズ interview

この人に聞く

第80回



昨年4月より海田町シルバー人材センターの常務理事・事務局長に就任された久保田誠司さんにお話しをお聞きしました。

聞き手／後原委員

高齢者に社会・人との繋がりを！
海田町シルバー人材センター 久保田誠司さん

●一年を振り返って

シルバー人材センターでの業務は、取り組むべき課題が明確で、成果が数字として表れる点に大きなやりがいを感じています。

小規模な組織であるため、意思決定が早く、自らの責任でさまざまな挑戦ができる点も魅力です。

●改革の取り組みは

賛助会員制度の取り組みに加え、センター施設内でのオペラやサックスコンサート、オレオレ詐欺防止講座、ガーデニング教室など、さまざまなイベントを実施しました。

来場者には、会員が手仕事で制作した財布やバッグなどの販売も行い、活動の魅力を知らせていただく機会としています。



入会待っています！

●将来の夢は

一つ目は、会員を増やすことです。二つ目は、高齢者の皆さんが仕事を通じて社会とのつながりを持つことが、健康面でも生活面でも大きな力になります。高齢者が社会・人との繋がりを持つ一助になりたいと思っています。

シルバー人材センターが、その社会参加のきっかけとなれるよう、今後もしも取り組みを進めていきたいと考えています。

今後の活躍をお祈りしています。

皆さまから寄せられた お便り

たくさんのお便りが届きました!!

◆先日、夕方に役場庁舎の1階をおとずれると多くの学生さんががんばって勉強されていました。私も資格試験の勉強をしなければいけないので、励みになります。1つ気になるのは、役場の周囲の街灯が少し暗く感じてあぶなく感じることです。(50代)

◆海田町を離れて20年余り。娘が議会だよりを持ってきてくれるので、今の海田を知っています。(70代)

◆年末年始は大きな地震が続き、前触れなく災害は起こるなあと再認識しました。私の住む寺迫は住民が増えているので、最寄りの避難所が混雑しないか心配です。(50代)

◆海田町は平地が少ない地域ですが、最近特に田んぼが住宅に置き換わって来ております。このままでは山と住宅だけになってしまいそうです。空き家の有効活用をしてほしいです。(70代)



◆瀬野川河川敷のスケボーパークを創ってくださった時の様に、バスケットボールが出来る公園や広場がないため、坂町にあるバスケットボールが出来る公園の様な施設を海田町にもつくってほしいです。小学生、中学生共にバスケットボールができる公園や広場がなく困っています。(10代)

7ページに関連記事

※お便りありがとうございました。頂いたご要望につきましては、執行部にお伝えします。これからどんどんお寄せください。お待ちしております。

第
136回

クイズ

ふるって
ご応募ください



何と言う橋
でしょうか？

応募方法

※橋の名前をお答えください。

- 郵便ハガキまたは電子申請 (下部2次元コード参照) によりご応募ください。

記載事項

住所、氏名、年齢、電話番号、クイズの答え
(余白に、議会へのお便り、要望、意見、イラストなど書いていただければ大歓迎です。)

- 正解者の中から抽選により、5人の方に図書カードを送ります。
- 締め切り/令和8年5月29日(当日消印有効)
- ハガキのあて先/〒736-8601 海田町南昭和町14-17 海田町議会事務局

※ご応募いただいた方の個人情報、ご意見などへの回答や抽選、図書カードの発送以外の目的には使用しません。

※投稿していただいたイラストやご意見は、掲載させていただく場合があります。



前回の正解 「東三迫橋」

応募総数61通(正解56通)でした。

当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。



前回クイズ解答の
東三迫橋

議員研修会報告

2月17日に行われた町議会議員研修に参加しました。

講演

「人口減少、縮小社会を見据えたまちづくり」

講師

ふるかわ こうぞう
古川 康造 さん

(せとうち観光専門職短期大学 教授 副学長/
高松丸亀町商店街振興組合 理事長)

商店街再生のための取り組みをご紹介いただきました。「街中に居住者を取り戻し、この街で生活してみたいと思ってもらいたい」という強い思いが伝わりました。我々も魅力ある海田町になるよう、今後も住民の皆さまの声を聴き、議会活動に努めてまいります。

自治功労者表彰

令和7年度自治功労者等表彰式において、次のとおり議員が表彰されました。

く り し ま も と お
久留島 元生 議員

議員20年以上(県表彰)



おかだ よしのり
岡田 良訓 議員

議員20年以上(県表彰)

編集後記

今年3月に冬季パラリンピックが開催されました。パラリンピックは、第二次世界大戦後の負傷兵のリハビリとして始まったストック・マンデビル競技大会を原点としています。1960年ローマ大会で初めて国際的な大会として開催され、1964年東京大会で初めて現在の名称が使われ始めました。冬季大会は、1976年に始まりました。こうした歩みは、障がいの有無を超えて挑戦する力を尊重する精神を育んできました。東京パラリンピックでは最新技術を活用した競技サポートや都市のバリアフリー化が進み、多様な選手が力強い姿を示しました。

海田町でも、駅周辺の段差解消や誘導ブロック整備、災害時要配慮者支援の充実など、誰もが安心して暮らせる環境づくりを着実に進めていきたいと思います。

(後原委員)